

記事を読んで、問いに答えましょう。

2020年11月11日朝刊 中部版

海洋汚染、ごみ削減どうする

ごみを減らす取り組みについて、
さまざまな意見を交わす児童
＝静岡市葵区の千代田東小

葵区・千代田東小4年生



静岡市立千代田東小(葵区)の4年3組32人が10日、総合的な学習の一環で海洋汚染につながる身近なごみの削減について話し合った。継続的にサポートしてきた研究者や地元スーパー、行政担当者も加わり、解決への手法を探った。

官民参加 解決へ手法模索

児童は5月から教科を横断して調べ学習を重ねてきた。マイクロボラスチックごみについて専門家から説明を受け、清掃工場や下水処理施設、東海大海洋科学博物館を見学、長尾川でのごみ拾いなどにも取り組んできた。

この日は、「2050年を安心安全な未来にするためにどんな取り組みをすればよいか」がテーマ。地域に落ちていくごみの種類を挙げ、ごみ拾いにどんな良さがあるか議論を深めた。家族や他の児童、地域住民に伝える手段としてチラシやポスターを作るなどの意見が上がった。同市環境局の担当者は会員制交流サイト(SNS)を使った情報発信を提案。山田和芳早稲田大人間科学術院教授(自然地理学)は「安心安全な未来は自分たちが幸せにしていること、この街を残したいという思い。その幸せを周りに広げて」とアドバイスした。

進行役を務めた後藤光史朗さん、村田悠馬さんは「ごみを減らしたいという皆の気持ちが高まった」と手応えを感じた様子。担任の杉浦元昭教諭は「子どもも自発的な取り組みがさらに広がってほしい」と期待を寄せた。(文化生活部・岡本妙)

①総合的な学習の時間、児童は何について話し合いましたか。

②児童の話し合いに加わったのは誰らですか。

③ごみ拾いの良さを伝える手段として、児童はどんな意見を出しましたか。

④ごみ拾いの良さを伝える手段として、静岡市環境局の担当者はどのような提案をしましたか。

年 組 名前

記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

2020年11月11日朝刊 中部版

海洋汚染、ごみ削減どうする

ごみを減らす取り組みについて、
さまざまな意見を交わす児童
＝静岡市葵区の千代田東小

葵区・千代田東小4年生



静岡市立千代田東小(葵区)の4年3組32人が10日、総合的な学習の一環で海洋汚染につながる身近なごみの削減について話し合った。継続的にサポートしてきた研究者や地元スーパー、行政担当者も加わり、解決への手法を探った。

官民参加 解決へ手法模索

児童は5月から教科を横断して調べ学習を重ねてきた。マイクロボラスチックごみについて専門家から説明を受け、清掃工場や下水処理施設、東海大海洋科学博物館を見学、長尾川でのごみ拾いなどにも取り組んできた。

この日は、「2050年を安心安全な未来にするためにどんな取り組みをすればよいか」がテーマ。地域に落ちているごみの種類を挙げ、ごみ拾いにどんな良さがあるか議論を深めた。家族や他の児童、地域住民に伝える手段としてチラシやポスターを作るなどの意見が上がった。同市環境局の担当者は会員制交流サイト(SNS)を使った情報発信を提案。山田和芳早稲田大人間科学術院教授(自然地理学)は「安心安全な未来は自分たちが幸せにしていること、この街を残したいという思い。その幸せを周りに広げて」とアドバイスした。

進行役を務めた後藤光史朗さん、村田悠馬さんは「ごみを減らしたいという皆の気持ちが高まった」と手応えを感じた様子。担任の杉浦元昭教諭は「子どもも自発的な取り組みがさらに広がってほしい」と期待を寄せた。(文化生活部・岡本妙)

①総合的な学習の時間、児童は何について話し合いましたか。

海洋汚染につながる身近なごみの削減について

②児童の話し合いに加わったのは誰らですか。

(継続的にサポートしてきた)研究者や地元スーパー、行政担当者

③ごみ拾いの良さを伝える手段として、児童はどんな意見を出しましたか。

チラシやポスターを作る(など)

④ごみ拾いの良さを伝える手段として、静岡市環境局の担当者はどのような提案をしましたか。

会員制交流サイト(SNS)を使った情報発信

年 組 名前